



全員が知恵と力を出し、笑顔で目標達成を喜び合う教職員集団づくり

No.15 広島県尾道市立日比崎中学校

本校は、令和2年度、通常学級8、特別支援学級2、全校生徒271名、教職員26名の学校である。平成28・29年度に、広島県「学びの変革」パイロット校事業指定校に指定され、それ以後も主体的な学びの授業改善に取り組んできた。その結果、平成30年度に「主体的な学びの授業改善の推進」で広島県教育奨励賞を、令和2年度には、「課題発見・解決学習の単元開発と実践」により、文部科学大臣優秀教職員組織表彰を受賞した。

課題発見・解決学習

本校の授業研究の特色は「解きたくなる課題設定（課題発見）」と「話合い活動（課題解決）」である。平成29年度までは、生徒の課題解決への意欲を引き出す導入の工夫とホワイトボードを活用した班討議に取り組み、平成30年度からは、班討議の後の全体討議の充実を中心に研究を進めてきた。また、令和元年度には、広島県中学校特別活動研究大会会場校を機に、特別活動における話合い活動の研究を進め、令和2年度は社会に開かれ

た教育課程として総合的な学習の時間の新单元の開発に着手した。具体的には、防災教育「南海トラフ大地震をみんなで生き残れ」を課題に、学年を越えた縦割りグループを組織して主体的な学びに挑戦した。さらに、「特別の教科 道徳」を含めた全ての授業で課題設定と話合い活動を研究の柱にして授業改善を進めた。教科に加えて特別活動や道徳に研究領域を広げたのは、他者の意見を尊重し受容する集団を育成することが、話合い活動を主体的なものにする上で大切であると考えたからである。

主体的に学ぶ教職員に

生徒の主体的な学びを創るために、教職員自らが主体的に学ぶ姿勢が大切である。また、意見を出し合い、多様な意見を受け止める教職員間の雰囲気、意見を形にできる組織、そして喜び合える風土も大切である。そのため校長が取り組んだことは次の四つである。

①授業研究における校長面談

本校では毎年全教師による教科の公開研究会を実施している。校長面談では授業者が研究会での授業構想を校長に説明する。この面談で授業者と校長が納得し、見通しをもつことができれば、次の「シミュレーション授業」に進む。令和2年度のシミュレーション授業は8月に3日間行われ、全教師が参加した。授業者が自らの構想を説明し、他の教師から意見をもらう。さらに、尾道市教育委員会指導主事にも参加していただき、指導・助言をもらう。面白いアイデアや意見に出会う楽しみな会である。

②学年団としてのチームづくり

例えば、令和元年度の特別活動の県大会への取組である。全学年での授業提案を目指し、研究大会当日に向けて学年全体で指導案を検討し、他クラスでの授業・協議会運営への準備等を行った。この取組は学年全体の授業力と学年力の向上、そして学年全体で作り上げる喜びにつながった。

③学年を越えたチームづくり

コロナ禍の中で、二つのプロジェクトチームを立ち上げた。それは「総合的新单元づくり」と「体育祭・文化祭に代わる行事づくり」である。この二つのチームは各学年の教職員で構成し、生徒も縦割りグループを採用したので、学校全体が一体感を感じる取組になった。二つのプロジェクトは新しい取組だったので、これまでの枠にとらわれない多くのアイデアが採用され、意欲の向上と全員でそれを形にする苦労、そして喜びを共有できた。

④ビジョンをキーワードで示す

①～③を支えるものとして、校長は教職員と生徒にビジョンをキーワードで繰り返し示

し、キーワードで振り返らせた。平成30年度に本校着任以来、年間を通して「感動と涙と歌声と笑顔あふれる卒業式」を目指すゴルとし、そのために様々な機会において、例えば「チャレンジ・突き抜ける・一生懸命の姿」等のキーワードを繰り返した。また、令和元年度の特別活動研究大会に向けては、1学期の始業式から「じゃんけんでも多数決でもない話合いで合意形成をする」ことを発信し続けた。令和2年度の新しい行事づくりでは生徒全員の「達成感」と3年生への「あこがれ感」を繰り返した。教職員にも企画書の目標の項目にこれらキーワードを示すことを求めた。その結果、学校全体の意識が揃ってきた。

主体的に学ぶ教職員集団づくりにおける校長の役割とは、目指す目標を示し、教職員が形をつくりやすい環境を整え、さらに方向性を確認することである。

令和2年度、多くの生徒が校長の示したキーワード・学校への誇り・自尊心の向上について授業後に振り返っていた。教職員では働き方改革アンケートの肯定的評価の平均が95%であった（10項目中4項目は100%）。例えば、「新しいアイデアへの管理職の積極的な支援100%」「教職員間での親しみやすい雰囲気100%」「日々の授業の達成感95%」と教職員が知恵を出し合い、達成を喜び合う姿が見られた。それは、まさに教職員が主体的に学ぶ姿である。今後は生徒・教職員が創り上げたこの伝統と誇りを「SCHOOL PRIDE」にまで高めていきたい。

（文責 校長 宮里浩寧）